



## この号の内容

- 1 第2期予備教育履修生合格者決定
- 2 第2期予備教育履修生 - 今後の予定
- 3 第1期予備教育履修生 - 修了式
- 4 第1期予備教育履修生 - 入学式
- 5 リクルート検証 -2019
- 6 リクルート対象高校の日本への修学旅行等における協力
- 7 留学生育成コンソーシアム
- 8 教員の着任・異動

**2019 予備教育履修生  
18名  
を決定しました**

## 第2期 予備教育履修生合格者決定

2019年10月から予備教育履修生として受け入れ、翌年4月からの学部入学を目指す留学生が決まりました。

昨年11月に出願が始まり、書類審査と面接審査を経て、合格者18名を決定し、4月19日に合格発表を行いました。

今期は、前期を大きく上回る**228名からの出願**を受理し、書類審査による第1次試験合格者の45名に対し、面接による第2次試験を対象者が志望している学部・学科の先生方と、国際高等教育院の教員3名（教育院長と副院長等）とで実施しました。

面接は、12か国・13の会場にモデレータ等を派遣し、本学会場とそれぞれの会場を結びテレビ会議システムによって、現地に派遣したモデレータの質問に回答する格好で、適宜本学側からの追加質問も交えながら進められました。

今期から志望する学部・学科を第3志望まで記載することになったため多数の学部・学科の先生方に面接への参加をお願いすることになり、しかも、第1次試験合格者の決定から面接日までの限られた日数のなかで調整等をお願いすることになりましたが、お陰様で無事に終えることができましたこと改めて御礼申し上げます。

面接に参加いただいた多くの先生方から学生の優秀さを賞賛するコメントをいただき、選りすぐりの**18名を選抜**できたと吉田カレッジオフィス一同こころより喜んでいます。

なお、日本にあるインターナショナルスクールや予備教育機関の在学生の場合は本学の会場で行っています。また、動画配信が禁じられている国については現地での面接試験に切り替えて実施しました。

面接対象者の大幅な増加に伴って国や会場数も格段に増えましたが、これまでの経験も活かしながら、確実にノウハウを蓄積・確立できていると実感している一方、まだまだ改善工夫の余地も多々あり、引き続き取り組んでまいります。



【面接審査の様子】

## 第2期予備教育履修生—今後の予定

入学意思確認期間：2019年4月19日～5月10日

現地での日本語予備教育期間：2019年5月中旬～9月中旬

来日：2019年9月下旬 **予備教育開始：2019年10月～**

## 第1期予備教育履修生 - 修了式



【宮川教育院長の祝辞】

2018年10月からスタートした第1期生3名全員が無事に予備教育課程を修了することになり、**2019年3月8日に予備教育課程修了式を実施しました。**

北野教育担当理事の祝辞、宮川国際高等教育院長から修了証書授与と祝辞の後、履修生一人ひとりが日本語で謝辞と挨拶をしました。

予備教育の内容は3名の日本語の習熟度や母国と日本の高校のカリキュラムギャップなどを踏まえて、三者三様に編成し、日本語は、初級と中級の場合 週10コマ(15時間)・上級以

上の場合 週7コマ(10時間30分)を履修、日本語以外は、経済学部志望の学生は 数学1コマと社会2コマ、工学部志望の学生は数学と化学と物理をそれぞれ2コマ履修し、平均すると毎日3コマずつを履修するハードなスケジュールでしたが、みんな精一杯頑張っ修了することができました。



【修了を祝って - 日本語担当の先生方と】

## 京都大学入学式

予備教育課程を修了した3名は全員入学のための試験に合格し、4月に志望の学部・学科に入学することになりました。いよいよこれから京大生としての学生生活がスタートします。早速様々な入学手続や履修のための予備登録等の手続をしたり、新入生ガイダンスなどにも参加し、**2019年4月5日には揃って京都大学入学式に参列しました。**



## リクルート検証-2019

今期は前期を大きく上回る228名からの出願を受理し、第1次試験合格者47名(2名は辞退)、最終合格者は18名となったのに対し、リクルート活動を実施した高校は9か国の有力高校計47校、そのうち24校から計68名の出願があり、第1次試験合格者は26名(全体の6割弱)、最終合格者は9名(全体の5割)でした。また、志願者全体の第1次試験合格者の割合が20.6%、最終合格者の割合が7.9%であるのに対し、リクルート対象校の出願者68名の第1次試験合格者の割合は38.2%、最終合格者の割合は13.2%となっています。

リクルート対象国の最有力校に対してリクルート活動を実施した結果なので、ここからの出願者の合格の率が高くなるのは当然といえますが、多数の出願に伴って合格水準はかなり引き上げられることになりました。それにもかかわらず、リ

クルート対象国・高校以外からも最終合格者の半数が出ており、相当高いレベルの出願者が獲得できていると思っています。

高校へのリクルート以外にも、各国の教育官庁や機関への働きかけも一定の効果があったと考えられるほか、インターネットによる情報収集が出願に繋がっていると考えられるケースも数多く、HPの重要性も再認識しているところです。他方、広報活動を行ったものの出願に繋がられなかった国や有力高校も存在するなど、改善に向けた取組の必要性も認識しています。こうした認識をもとに、少なくとも今期の出願者の水準を維持し、更に向上させることができるように、次期の広報・リクルートの計画をまとめているところです。

## リクルート対象高校の日本への修学旅行等における協力



【4/23 WU 研究員の体験授業の様子】

2017年4月の台湾・建国高校からの訪問（校長・教員（3名）、学生・保護者（34名））に始まり、2018年は台湾と香港の有力高校6校の訪問を受け、大学や Kyoto iUP の説明会、研究室見学やキャンパスツアーを実施してきました。

本年4月23日には、台湾の建国高校と第一女子高校を合同で受け入れるプログラムを実施（建国／学生30名・教員2名、一女／校長・教員2名、学生36名）し、①

京都大学の紹介や自然科学の体験授業【工学研究科・清水芳久教授、防災研究所・WU,Ying-Hsin 研究員(台湾出身)】、②研究室訪問【農学研究科応用生命科学専攻発酵生理及び醸造学研究室】、③留学生による留学体験談と質疑応答などを行いました。第一女子高校の留学体験談と質疑応答は、同校の卒業生で教育学部と経済学部で学んでいる留学生（うち1名は Kyoto iUP 生）が担当してくれました。体験授業や研究室訪問は、京都大学での学びや高度な研究レベルや施設設備を体感することによって将来の留学に結びつく有意義なもので、実際に訪れた生徒さんたちは目を輝かせながら話を聴き、積極的に質問もしていました。2019 予備教育履修生 18 人のうち 3 名が建国高校の出身者ですが、3 名ともが 2017 年 4 月に訪問してくれた生徒だったことが判りました。実際にプログラムを実施するには多くの方のご尽力を要しますが、本学への留学を強く動機付けるのを実感できた嬉しい判明でした。

この後も6月に、コクヨベトナムトレーディング社による「日本の大学見学プログラム」の一環として、ハノイ師範大付属スーフラム高校をはじめとするベトナムのトップ高校の教員・学生達の訪問を受け昨年と同様 Kyoto iUP の説明会等を実施することが決まっています。

このベトナムからの訪問を受けるに当たっては、現地で販売されるコクヨのノートの裏面に京都大学と Kyoto iUP の紹介を掲載していただくことになりました。同ノートは中高生を主な購買層とし、その販売冊数は年間20万部で、絶大な宣伝効果が期待できます。

## Kyoto iUP 留學生育成コンソーシアム

京都大学基金の一つとして「Kyoto iUP 基金」が創設されていますが、具体的な寄付集めの枠組みとなる「Kyoto iUP 留學生育成コンソーシアム」について先般規約を策定し、正式に発足の運びとなりました。本年度からより一層取組を促進し、趣旨にご賛同いただける企業さま、個人の皆さまを会員として募っていきます。

このコンソーシアムは、Kyoto iUP の留學生の就学を支援し、将来の日本社会を国内外から支える人材を共同で育成することを目的としています。この目的を達成するために、留學生に対する奨学金の支給、会員と留學生・京都大学関係者による懇談会、留學生による会員企業見学会やインターンシッププログラムなどを事業として実施し、その資金として年間2口 100万円を標準額として常時募集し、Kyoto iUP 基金として受け入れます。また、留學生1人が予備教育を経て学部を卒業するまでの必要費用を十分にまかなえる750万円を寄附いただける場合には、当該法人会員又は個人会員名称等を冠した冠奨学金を創設します。

詳しい内容は直接説明に伺わせていただくか、電話やメールでも説明させていただきます。ぜひ機会をいただけますよう吉田カレッジオフィス【075-753-5403/担当直通 or 下の連絡先】にご一報をお願いします。

趣旨にご賛同いただける

企業さま

個人の皆さま

を募っています

## 教員の着任・異動

★H31.4.1 採用 吉田カレッジオフィス副室長 特定教授 長谷部 伸 治

3月末で工学研究科を退職し、着任いたしました。Kyoto iUP の今後は、この一年の活動の評価に大きく左右されると思っています。昨年度の活動をベースにして、全ての業務がスムーズに進むようなシステム作りに尽力したいと考えています。ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、ご協力よろしくお願い致します。



★H31.4.1 採用 吉田カレッジオフィス 特定講師 岡 田 幸 典

昨年度は非常勤講師として Kyoto iUP の予備教育に携わらせて頂きました。Kyoto iUP では今後、様々な地域から学生を多数迎えることになり、これまで以上に丁寧な対応が必要となりますが、留學生教育に関わってまだ日が浅い私には依然、試行錯誤が続きます。知見と経験豊富な皆様のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



### Kyoto iUP Newsletter

発行 京都大学国際高等教育院吉田カレッジオフィス

連絡先 吉田カレッジオフィス事務室

E-mail : [Kyoto\\_iup@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:Kyoto_iup@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

URL : <http://www.iup.kyoto-u.ac.jp/>

